

平成9年度(1997年度)事業報告

I 事業報告

1. 概況

長引く経済不況が企業メセナに少なからぬ影響を及ぼしていることが懸念されますが、1997年度の協議会認定事業を見るかぎり、このような不安は杞憂に過ぎないのではないかとと思われるほどに活発なメセナ活動が展開されました。すなわち、認定されたプロジェクトへの寄付の実施件数が769件、寄付金額は8億6555万円にものぼり、これは制度が発足した1994年度の実績に比較すると件数で約4.8倍、金額では約4.5倍、前年度に比較しても各々約1.2倍、約1.6倍の伸びを示しています。ここ数年の特徴である「金額は小口でも件数は多く」という傾向は当年度も同様に見られ、そこに厳しい情勢下でも着実にメセナを実施していく企業の「知恵と工夫」が伺えます。

このような状況の中で、1997年度の企業メセナ協議会は「メセナ大賞」、「メセナ白書」、「メセナ誌」、そして「助成認定」等の主要事業を推進するとともに21世紀に進むべき方向を探るために「国際交流」事業の一環として、会員企業有志からなるフランス視察団の派遣、アジア地域におけるメセナ・ネットワーク組織設立に向けての国際会議などの活動を展開しました。

また、メセナ活動の全国的広がりの中で、各地にメセナ組織が結成されていることから、それらとの交流を通じて側面的に支援するほか、最近とみに脚光を浴びるようになったNPOの動きについても、そのアートとの関連を注意深く見守り、情報収集に努めています。

しかし一方では、長期化する景気低迷のもとで会員数が伸び悩み、事業活動の財源となる会費収入が期待どおりに増えないことから、極力、経費の節減に努めましたが、助成認定等の事業拡大にともなう費用増が避けられず、協議会財政はいっそう厳しい運営を強いられております。

2. 会員状況

会員数は、97年度期首において正会員172社(473口)・準会員45団体(48口)でしたが、期末において、正会員173社(474口)・準会員44団体(47口)となりました。

	会員数			口数		
	期首	期末	増減	期首	期末	増減
正会員	172社	173社	+1社	473口	474口	+1口
準会員	45団体	44団体	-1団体	48口	47口	-1口

なお、本年6月30日現在では、正会員168社(468口)・準会員42団体(43口)となっています。

3. 事業実施状況

3. 1 概要

3. 1. 1 啓発普及事業

会員企業の新しいメセナ担当者を対象とする「メセナセミナー〈入門編〉」をアサヒビール、松下電器、キリンビール、住友生命各社のご協力を得て、東京・大阪2会場で実施しました。また、会員企業のメセナ活動事例に学ぶ「メセナセミナー〈ケーススタディ〉」をワコール、林原共済会のご協力を得て2回実施しました。

一方、「アートセミナー」では、「メセナ」誌の作品紹介記事と連動させた〈フォローシリーズ〉を4回、さまざまなジャンルにおけるアート環境の現状を考察する〈アート環境シリーズ〉は2回実施しました。さらに〈アートフィールド視察研修〉では、「新国立劇場と東京オペラシティ」、瀬戸内海の「直島文化村」、「シアターコクーン」の舞台裏」等を視察し、好評を得ました。

3. 1. 2 情報集配・仲介事業

機関誌「季刊メセナ」は、当年度から内容、体裁を刷新。ページ数も増やし、読みやすく、さらに実務に役立つページづくりをめざして、年間4回（各4000部）発行しました。

なお、前年度に引き続き、インターネット上に開設したホームページでメセナに関する情報を提供するとともに、各企業や財団のメセナ活動に関する情報資料を事務局で自由に閲覧できる受入れ体制づくりをはかり、学生や研究者、芸術団体関係者などの利用に供しました。

3. 1. 3 調査研究事業

当年度の「メセナ白書1997」は、調査部会メンバーのご協力のもとに「企業の顕彰・コンクール事業」を特集として1997年10月23日にダイヤモンド社より発行。同日記者発表会を実施した結果、多数のマスコミ媒体で紹介され、不況下での企業メセナの定着ぶりを世間にアピールすることができました。

3. 1. 4 顕彰事業

「メセナ大賞'97」では全国151の企業・財団から203件の応募が寄せられました。それらが大賞部会メンバーのご協力を得て、調査・取材等をしたうえで、2度にわたる審査委員会で審議し受賞7社を選定。11月20日の記者発表会にて、結果を発表いたしました。さらに、12月4日、有楽町朝日ホールにおいて贈呈式並びにレセプションを実施しました。

なお、当年度から審査委員は次の方々をお願いしております（任期は3年間）。

浅田彰氏（京都大学経済研究所助教授）、池辺晋一郎氏（作曲家）、岩淵潤子氏（美術館運営管理研究者）、奥野健男氏（文芸評論家）、

周防正行氏（映画監督）、高橋康也氏（演劇評論家）、
永井多恵子氏（NHK解説委員）、堀田力氏（弁護士）、
福原理事長

※奥野健男氏は1997年12月に逝去されたため、1998年度より篠田節子氏（作家）に2年の任期をお願いいたしております。

3. 1. 5 助成事業

協議会の助成認定事業も4年目を迎え、当年度の当制度を利用したの寄付件数は769件、寄付金額は8億6555万円にも達し、ますます増加する傾向にあります。その詳細を見ると、1件あたりの寄付金額が30万円未満の寄付が50%を占めている点が注目されます。

3. 1. 6 国際交流事業

1997年9月、福原理事長、中江理事、根本専務理事はじめ協議会関係者など19名からなる視察団をフランスへ派遣し、主に同国の地方において、さまざまな方式でメセナが行われている実状について情報収集しました。

また1998年2月、かねてから懸案のアジアにおけるメセナ・ネットワーク組織の設立について、オーストラリア・韓国・インドの関係者との作業委員会をトヨタ自動車、日本電気、セゾンコーポレーション、第一生命の参加も得て東京で開催しました。

この会議では、当面の経済情勢の行方も睨み合わせながら、フィリピンも交えた5カ国が中心となって、ゆるやかなネットワークを形成しつつ、他のアジア諸国におけるメセナ組織の発足を促していくことで意見が一致しました。

3. 1. 7 中期構想

中期構想の一つとして、地方におけるメセナ組織のネットワークづくりの推進を掲げましたが、97年度は新たに、熊本に「文化アシスト会議」、山梨・長坂に「長坂メセナの会」、福島・喜多方に「地域文化を支援する企業と個人の会」、島根・出雲に「出雲メセナ協会」が設立されました。また、「全国メセナ組織連絡会」は4月に第2回目の全国会議を、東海メセナ研究会と協力して名古屋で開催し、各組織のかかえる諸問題について情報の交換を行いました。

3. 2 事業実績

3. 2. 1 啓発・普及事業

1) セミナー

実施日	内容 ★セミナー☆アートセミナー	講師（敬称略）	会場	参加者数
1997年 5月23日	★入門編	加藤種男（協議会参与） 多田敏志（日産自動車） 北川恵（松下電器）	東京芸術劇場小会議室	17名
5月26日	★入門編	加藤種男（協議会参与） 栗田和典（麒麟ビール） 井上小太郎（住友生命）	大阪府立青少年会館 会議室	21名
6月5日	☆アート環境シリーズ 「ギャラリーの社会的役割」	村田真（美術評論家） 山本豊津（東京画廊） 並河恵美子（ルナミ画廊）他	有楽町朝日スクエア	71名
7月18日	☆アートフィールド 視察研修 「新国立劇場と東京オペラ シティ」の見学		新国立劇場・ 東京オペラシティ	62名
8月21日	☆フォローシリーズ 「ふるさときゃらばん・ 石塚克彦さんをお迎えして」	村井健（演劇評論家） 石塚克彦	有楽町朝日スクエア	14名
9月10日	☆アート環境シリーズ 「市民生活に開かれた文化 政策をめざして」	小林真里（国士舘大学） 古賀弥生（福岡市役所） 米屋尚子（芸団協）他	有楽町朝日スクエア	29名
10月9日	★ケーススタディシリーズ 「ワコールのメセナ活動」	尾崎宣之（ワコール・センター）	スパイラル	8名
10月23日	★ケーススタディシリーズ 「林原のメセナ活動」	政木和也（林原共済会）他	林原本社他	15名
10月24日	☆アートフィールド 視察研修 「直島文化村」の見学	秋元雄史（ハ・ネット・コレクション）	直島文化村	13名
10月25日	☆「カスパー・ケーニヒ 講演会」	カスパー・ケーニヒ（キュレーター）	スパイラルホール	162名
11月30日	☆フォローシリーズ 「映画監督・河瀬直美さん をお迎えして」	武藤起一（映像環境プロデューサー） 河瀬直美	こどもの城研修室	16名

実施日	内容 ★メセナ☆アートセミナー	講師（敬称略）	会場	参加者数
1998年 1月13日	☆アートフィールド 視察研修 体験講座「舞台の裏側」	松本直み（舞台照明家） ハンバ・デイリヤ（演出家）	シアターコクーン	28名
2月4日	☆フォローシリーズ 「振付家・井手茂太さんをお迎えして」	後藤美紀子（舞台制作者） 井手茂太	東京芸術劇場中会議室	20名
3月18日	☆フォローシリーズ 「河原温展を鑑賞しながら」	村田真（美術評論家） 南雄介（東京都現代美術館学芸員）	東京都現代美術館	17名

2) 通常総会特別講演会

- ① 6月9日 演題：「アメリカにおけるアートサポートの変化」
講師：岩淵潤子（美術館運営管理研究者）
於：経団連会館
- ② 3月26日 演題：「主婦の友グループのメセナ活動～カザルスホールの10年間」
講師：石川康彦（株主婦の友社 代表取締役社長）
於：東京商工会議所

3. 2. 2 情報集配・仲介事業

1) 季刊「メセナ」の発行

- ① 4月20日 28号発行 特集「21世紀のメセナを支える人びと」
② 7月20日 29号発行 特集「民間からの政策提言【芸術編】」
③ 10月20日 30号発行 特集「進め！メセナ少年」
④ 1月20日 31号発行 特集「メセナ最新キーワード20」

2) ホームページ

1998年2月にリニューアルしたホームページを毎月更新。
1997年度のアクセス数は21,547件（前年度比150%）

3. 2. 3 調査研究事業

「メセナ白書1997」の発行

発行日：10月23日 発行部数：5000部 体裁：A5版349頁
特集：「企業の顕彰・コンクール事業」
記者発表：10月23日 ※28媒体が出席

3. 2. 4 顕彰事業

メセナ大賞'97

4月1日 募集要項発表
5月31日 応募締切 応募件数203件（151団体）

- 7月31日 第1回審査委員会
8月25日 第2回審査委員会
10月20日 季刊「メセナ」30号誌上にて読者賞の案内
11月20日 記者発表会にて受賞企業発表 ※17媒体が出席
12月4日 贈呈式・審査委員フォーラム及びレセプション
審査委員フォーラム 演題：「企業メセナの新たな地平」
出演：浅田彰（京都大学経済研究所助教授）
周防正行（映画監督）
永井多恵子（NHK解説委員）
司会：根本専務理事
於：有楽町朝日ホール（贈呈式）、レストラン・アラスカ（レセプション）

3. 2. 5 助成事業（詳細は別紙）

3. 2. 6 国際交流事業

- 1) 9月13日～27日 フランスメセナ視察団
参加者 福原理事長、中江理事、根本専務理事はじめ19名
- 2) 10月13・14日 B C A設立30周年記念行事と国際会議
出席 根本専務理事、事務局・河合
- 3) 2月2日～3日 アジアにおけるメセナ・ネットワーク組織設立作業委員会
※アジア・メセナ講演会（2月3日）
演題：「文化のネットワーク～アジアのメセナ代表に聞く～」
出演：C.ガントナー（豪州・アジアリンクセンター会長）
S.S.バーガット（印・インド美術工芸協会幹事）
金致坤（韓国・企業メセナ協議会事務所長）
堤副会長
司会：根本専務理事
参加者数：約100名

3. 2. 7 中期構想

- 1) 4月8日 第2回全国メセナ会議開催
第1分科会「財政支援活動を中心とするメセナ組織の運営」
第2分科会「小都市のメセナ組織の運営」
第3分科会「市民から生まれたメセナ組織の運営」
第4分科会「メセナのネットワークづくり」
於：愛知芸術文化センター
参加者：全国のメセナ組織12を含む31団体より43名
- 2) 4月9日 「メセナ会議'97 東海」
演題：「地域におけるメセナ活動の今後のあり方」
事例発表 企業メセナ群馬、大田まちづくり芸術支援協会
参加者：49名

4. 収支報告

今期より、助成事業にともなう助成寄附金の収支については特別会計として、その他の事業にともなう費用の収支については一般会計として報告します。

1. 一般会計（助成寄付金を除く）

当期の収入は、予算1億3343万円に対して100.3%の1億3379万9858円の実績でした。会費収入は見込を下回りましたが、事業収入と雑収入が予算を上回って、そのマイナス分をカバーしました。

一方、支出は、事業費が予算6010万円に対して102.6%の6168万8464円、管理費が予算7310万円に対して106.4%の7778万7246円で、合計1億3947万5710円の決算額となり、当期収支は△567万7582円でした。

また、前期繰越収支差額が1060万3923円の見込よりも625万4788円少なかったこと、さらに平成5年度（1993年度）及び平成6年度（1994年度）の退職給与引当金繰入額327万2000円が収支計算書上に未計上であったため、これを過年度収支差額修正として今期決算に計上したことにより、最終的に次期繰越収支差額は△459万8717円になりました。

2. 特別会計（助成寄附金）

当期の寄附金収入は8億6555万5000円、支出は8億4565万5000円の実績でした。当期の収支差額の1990万円は入金と出金の時期が期を跨がったために発生したもので、同じ理由から発生した前期繰越収支差額80万円を加算した次期繰越収支差額は2070万円になりました。

3. 総括

上記の結果、一般会計と特別会計を合算した総括では、当期の収入は9億9935万4858円、支出は9億8513万710円となり、当期収支差額は1422万4148円でした。これに前期繰越収支差額514万9135円を加算し、過年度収支差額修正額327万2000円を差し引いた次期繰越収支差額は、1610万1283円となりました。

当年度の収支計算書および貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録は別紙のとおりです。

II 処務の概要

1. 役員に関する事項

平成9年度末現在

役員	氏名	就任年月日	担当職務	手当(月額)	略歴
理事	西尾 信一	1990. 2. 14	会 長	65万円	第一生命保険(相)相談役
	佐治 敬三	1990. 2. 14	副会長		サントリー(株)会長
	塚本 幸一	1990. 2. 14	副会長		(株)ワコール会長
	堤 清二	1990. 2. 14	副会長		(株)セゾンコーポレーション会長
	樋口廣太郎	1994. 4. 1	副会長		アサヒビール(株)会長
	福原 義春	1990. 2. 14	理事長		(株)資生堂会長
	石川 六郎	1990. 2. 14			鹿島建設(株)名誉会長
	稲盛 和夫	1990. 2. 14			京セラ(株)名誉会長
	大賀 典雄	1990. 2. 14			ソニー(株)会長
	大西 正文	1996. 4. 1			大阪ガス(株)会長
	金子 尚志	1990. 7. 11			日本電気(株)社長
	北島 義俊	1994. 4. 1			大日本印刷(株)社長
	後藤 康男	1991. 4. 1			安田火災海上保険(株)会長
	小林庄一郎	1996. 4. 1			関西電力(株)相談役
	小林 正夫	1997. 4. 1			日本製紙(株)社長
	小林陽太郎	1994. 4. 1			富士ゼロックス(株)会長
	澤田 茂生	1997. 4. 1			日本電信電話(株)会長
	椎名 武雄	1990. 7. 11			日本アイ・ビー・エム(株)会長
	柴田 俊治	1990. 7. 11			朝日放送(株)社長
	竹中 統一	1990. 7. 11			竹中工務店社長
	鶴田 卓彦	1996. 4. 1			(株)日本経済新聞社社長
	豊田章一郎	1990. 7. 11			トヨタ自動車(株)会長
	中江 利忠	1990. 2. 14			(株)朝日新聞社相談役
那須 翔	1996. 4. 1		東京電力(株)会長		
端田 泰三	1996. 4. 1		(株)富士銀行相談役		
福川 伸次	1995. 4. 1		(株)電通総研社長		
松橋 功	1996. 4. 1		(株)日本交通公社会長		
森下 洋一	1997. 4. 1		松下電器産業(株)社長		
根本長兵衛	1990. 2. 14	専務理事	共立女子大学教授		
監事	今村 治輔	1994. 4. 1	監 事		清水建設(株)社長

2. 職員に関する事項

平成9年度末現在

職務	氏名	就任年月日	担当業務	手当(月額)	備考
事務局長	角山 紘一	1998. 2. 1	全般管理	—	(会員企業より出向)
	岩瀬 慶孝	1994. 4. 1	事業	11万円	
	高井 光子	1990. 2. 14	総務	50	
	熊倉 純子	1993. 4. 1	事業	31	
	久保田大介	1992. 4. 1	事業	26	
	河合 晴子	1995. 10. 21	事業	21	
	武田 直樹	1995. 12. 21	事業	23	
	伊藤亜希子	1997. 6. 2	事業	23	

3. 役員会等に関する事項

(1) 理事会

開催年月日	議 事 事 項	会議結果
1997. 6. 9	1. 新会員承認の件 2. 1997年度事業並びに収支決算報告の件	可決 可決
1997. 12. 12	1. 新会員承認の件 2. 次期役員選任の件	可決 可決
1998. 3. 26	1. 新会員承認の件 2. 役員選任の件 3. 1997年度事業計画並びに収支予算案の件	可決 可決 可決

(2) 総会

開催年月日	議 事 事 項	会議結果
1997. 6. 9	1. 1997年度事業並びに収支決算報告の件	可決
1998. 3. 26	1. 役員選任の件 2. 1997年度事業計画並びに収支予算案の件	可決 可決

4. 許可、認可および承認に関する事項

該当なし

5. 契約に関する事項

該当なし

6. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額	備 考
企業メセナ協議会 認定事業への助成	607 団体・個人	86555 万円	助成件数 115件

7. 主務官庁指示に関する事項

該当なし